

高野山大学図書館を見学して

(「図書館員の四季」だけど「第13回交流会 in 高野山」)

京都医療センター 安井 久見子

旅行や観光に全く興味がない私。この機会を逃したら高野山に行くことは一生ないだろうという気がしたので、第13回交流会 in 高野山に参加することにしました。結果として大変楽しい興奮の2日間を過ごし高野山を満喫しましたが、その中から高野山大学図書館で私の印象に残った3点をご紹介します。

1. 書庫

書棚を囲むように、棚に接する部分の天井と床が10 cmほど吹抜けになっています。本棚に正対すると足先にあたる部分の床が抜けていてありません。怖いです。でも、その隙間から見渡せる階上階下の書架の眺めがとても美しかったです。

2. 千字文での番号表記

和綴じの大蔵経を収めた棚があります。配架方法は、十数冊ずつをまず束ね、束ねたそれぞれに「天」「地」「玄」「黄」…と漢字一字を書いた札を貼り、それらの束を積むというかたちです。千字文を知らなかった教養のない私は、束の順番を「せんじもん」で表記していること、「せんじもん」は「千字文」と書くというところから教えていただき、こんな趣味の良い番号の振り方があるのかと衝撃を受けたのでした。

3. 高野山大学図書館分類表

分類の大半が「曼荼羅」「金剛界」「胎藏界」など特殊なもので、眺めているだけでわくわくします。交流会の時間には、参加者の皆さんと、この分類表の話題でひと盛り上がりして楽しみました。

閲覧室の窓や照明器具なども素敵で、上品なおもむきのある図書館でした。